

## 平成28年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年10月31日

上場会社名 キリンホールディングス株式会社

上場取引所 東・名・札・福

コード番号 2503

URL <http://www.kirinholdings.co.jp/>

代表者(役職名) 代表取締役社長

(氏名) 磯崎 功典

問合せ先責任者(役職名) グループコーポレートコミュニケーション担当  
ディレクター

(氏名) 藤原 哲也 (TEL) 03-6837-7015

四半期報告書提出予定日 平成28年11月10日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成28年12月期第3四半期の連結業績(平成28年1月1日～平成28年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年12月期第3四半期	1,542,934	△5.4	110,660	8.2	108,040	6.0	75,105	36.6
27年12月期第3四半期	1,630,940	1.4	102,318	26.6	101,878	38.4	54,964	149.5

(注) 包括利益 28年12月期第3四半期△33,832百万円(—%) 27年12月期第3四半期 3,084百万円(△95.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年12月期第3四半期	82.31	82.29
27年12月期第3四半期	60.23	60.22

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年12月期第3四半期	2,187,308	859,904	27.3
27年12月期	2,443,773	938,083	27.2

(参考) 自己資本 28年12月期第3四半期 596,751百万円 27年12月期 663,842百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年12月期	—	19.00	—	19.00	38.00
28年12月期	—	19.00	—	—	—
28年12月期(予想)	—	—	—	19.00	38.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成28年12月期の連結業績予想(平成28年1月1日～平成28年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,090,000	△4.9	134,000	7.4	132,000	3.0	85,000	—	93.15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P7「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 有

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P7「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

28年12月期3Q	914,000,000株	27年12月期	914,000,000株
28年12月期3Q	1,479,373株	27年12月期	1,471,032株
28年12月期3Q	912,524,658株	27年12月期3Q	912,539,931株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1) 本資料に掲載されている業績予想に関する記述は、当社および当グループが本資料の発表日現在で入手可能な情報から得られた判断に基づいていますが、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、当社および当グループの事業をとりまく経済情勢、市場動向、為替レートなどに関わる様々な要因により、記述されている業績予想とは大幅に異なる可能性があることをご承知おきください。

(2) 決算補足説明資料は本日10月31日(月)に、また、11月1日(火)開催の決算説明会(電話会議)における資料・主な質疑応答については速やかに、当社ホームページに掲載いたします。

(当社ホームページURL)

<http://www.kirinholdings.co.jp/irinfo/event/explain/index.html>

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	6
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	7
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	7
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	7
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	7
3. 四半期連結財務諸表 .....	8
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	10
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	10
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	11
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	12
(継続企業の前提に関する注記) .....	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	12
(セグメント情報等) .....	12
(追加情報) .....	14

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期（平成28年1月1日～平成28年9月30日）における世界経済は、米国のように緩やかな回復が見られる地域があった一方で、中国をはじめとするアジア新興国や資源国の景気下振れによる弱さが見られ、また、国際金融資本市場の変動、英国のEU離脱問題、中東を巡る地政学的なリスクが懸念される中で、不確実性をもって推移しました。

わが国経済は、年初以降の円高の進行と新興国経済の減速から輸出が伸び悩み、また、円高や実質賃金の伸びの弱さを背景に個人消費が横ばいであったものの、雇用情勢が改善し、やや緩やかな回復基調で推移しました。

キリングroupは、2016年（平成28年）度より、新たな長期経営構想、新「キリン・グループ・ビジョン2021」（略称：新KV2021）実現に向けた前半の3か年計画である「キリングroup2016年～2018年中期経営計画」（略称：2016年中計）をスタートさせました。2016年中計では、収益力の向上を最優先課題とし、優先度を明確にした投資による既存事業の競争力強化と低収益事業の収益構造の抜本的改革に向け、取り組みを開始しました。成長に向けた投資は、キリンビール(株)の成長を最優先とし、グループ本社であるキリンホールディングス(株)と日本総合飲料事業統括会社であるキリン(株)が一体となって取り組みを進めました。

当第3四半期の連結売上高は、日本総合飲料事業におけるキリンビール(株)でのビール類の販売数量減少、キリンビバレッジ(株)での第2四半期から販売促進費の一部を売上高控除とした影響に加え、海外総合飲料事業における為替の影響により、減収となりました。連結営業利益は、キリンビバレッジ(株)での大幅増益や、各社における収益性改善の取り組み進展により、増益となりました。連結経常利益は、営業利益の増加に伴い増加し、親会社株主に帰属する四半期純利益は、ライオン社の豪州における輸入ビールのライセンス販売終了に伴う特別利益計上により増加しました。

連結売上高	1兆5,429億円（前年同期比	5.4%減）
連結営業利益	1,106億円（前年同期比	8.2%増）
連結経常利益	1,080億円（前年同期比	6.0%増）
連結第3四半期純利益 ※1	751億円（前年同期比	36.6%増）
（参考）		
平準化EPS ※2	93円（前年同期比	5.7%増）

※1 「親会社株主に帰属する四半期純利益」を指しております。

※2 平準化：特別損益等の非経常項目を除外し、より実質的な収益力を反映させるための調整

平準化EPS = 平準化四半期純利益 / 期中平均株式数

平準化四半期純利益 = 四半期純利益 + のれん等償却額 ± 税金等調整後特別損益

なお、平準化EPSは円未満四捨五入により算出しております。

セグメント別の業績は次のとおりです。

#### <日本総合飲料事業>

日本総合飲料事業では、キリンの強みである、ていねいなものづくりや品質へのこだわりが生み出す商品やサービスをを通じて、お客様に驚きや感動を提供することを“Quality with Surprise”というメッセージに込めて、ブランド育成や企業活動を行いました。

キリンビール(株)は、誰よりも「お客様のことを一番考える会社」を目指して、キリンの強みを活かした価値創造を図りました。ビールについては、「キリン一番搾り生ビール」とクラフトビール<sup>\*1</sup>の育成によるビール市場の活性化に、引き続き注力しました。特に、全国の47都道府県ごとに味の違いや個性を楽しめる「47都道府県の一搾り」の年間販売目標数を当初予定の7割増に上方修正する等、「一番搾り」の販売数量は前年同期と比べて増加しました。発泡酒では、糖質等を削減した商品「淡麗グリーンラベル」と「淡麗プラチナダブル」の販売が堅調に推移しました。新ジャンルでは、お客様の飲用シーンに合わせた季節限定商品「夜のどごし」の発売に加え、9月に主力商品「のどごしく生」の広告全面刷新と通年販売商品「のどごし オールライト」のフルリニューアルを行い、「のどごし」ブランドのさらなる強化を図りました。これらにより、ビール類全体の販売は第2四半期と比べて回復基調となりましたが、第2四半期までの販売数量減少分を挽回できず、ビール類全体の販売数量は前年同期を下回りました。嗜好の多様化により拡大の続くRTD<sup>\*2</sup>カテゴリーでは、新商品と季節限定商品を順次発売し、幅広い

ラインナップにより基盤強化を進めた主力商品「キリン 氷結®」シリーズの販売数量が、前年同期を上回りました。洋酒カテゴリーでは、国産ウイスキーと輸入ウイスキーの販売が、共に堅調でした。

メルシャン㈱では、ワイン市場全体の中長期的な拡大と日本ワインの啓発活動を推進し、魅力あるカテゴリー・ブランドポートフォリオの構築に取り組みました。フラッグシップブランド「シャトー・メルシャン」は商品価値の伝達を進め、「Japan Wine Competition (日本ワインコンクール) 2016」にて出品ワイナリーのうち最多の金賞を受賞し、日本ワインとしての評価を高めました。また、国内製造ワイン市場で最大の金額構成比を占める無添加・有機カテゴリーにおいて、ブドウの品質にこだわった新商品「おいしい酸化防止剤無添加ワイン 厳選素材」を発売しました。輸入ワインでは、2016年1月から6月の間にワイン国別輸入量第1位<sup>\*3</sup>となったチリワインについて、中高価格帯の「カッセルロ・デル・ディアプロ」の販売活動に引き続き注力し、前年同期を大きく上回る販売数量を達成しました。

キリンビバレッジ㈱では、利益ある成長を目指し、継続的なブランド価値向上と抜本的な収益構造改革に取り組みました。無糖茶カテゴリーでのブランド確立を目指して3月にフルリニューアルした「キリン 生茶」の販売は、引き続き大変好調に推移し、商品の増産体制を敷いて対応しました。発売から30周年を迎える基盤ブランド「キリン 午後の紅茶」は、量販店での販売好調やダイードリンク株式会社の自動販売機での商品相互販売により、主力商品のストレート、ミルク、レモン、おいしい無糖の販売が伸びました。さらに、“カラダにやさしい”がコンセプトの「午後の紅茶 こだわり素材」シリーズの発売や、各地域における「午後の紅茶 おいしい無糖」の食連動広告の展開を通じ、新たな魅力やおいしさ、飲用シーンの提案を進めました。重要カテゴリーであるコーヒーについては、発売前に商品名と商品概要を告知せず、お客様に味覚だけを評価して頂く100万本のシークレットサンプリング活動を実施し、お客様への缶コーヒーへの関心を喚起しました。これらの取り組みを通じ、市場を大きく上回る水準で、清涼飲料全体の販売数量が増加しました。なお、利益ある成長の実現に向け、小型容器を中心とした目標管理方法の徹底を進め、缶・小型ペットボトル容器についても販売数量は前年同期と比べて増加しました。加えて、販売促進費の管理強化、製造効率改善によるコスト削減等の収益構造改革に、継続して取り組みました。

なお、日本総合飲料事業につきましては、第1四半期より、減価償却費の償却方法を、定率法から定額法に変更しています。

これらの結果、日本総合飲料事業の売上高について、キリンビバレッジ㈱で清涼飲料の販売数量が増加したものの、キリンビール㈱でビール類の販売数量が減少したことに加え、第2四半期よりキリンビバレッジ㈱において販売促進費の一部を売上高から控除した影響で、減収となりました。日本総合飲料事業の営業利益は、キリンビール㈱で引き続き事業基盤強化に向けたコスト削減が進捗したことや、キリンビバレッジ㈱での大幅増益に加え、メルシャン㈱での円高の影響もあり、増益となりました。

※1 クラフトビール：当社では、作り手の顔が見え、こだわりが感じられ、味の違いや個性が楽しめるビールのことと捉えています。

※2 RTD：栓を開けてそのまま飲める低アルコール飲料で、Ready to Drinkの略。

※3 財務省関税局調べによる「ぶどう酒 (2L以下)」と「ぶどう酒 (2L超150L以下)」の合計。

日本総合飲料事業連結売上高	8,512億円 (前年同期比	2.1%減 )
日本総合飲料事業連結営業利益	524億円 (前年同期比	61.6%増 )

## 〈海外総合飲料事業〉

ライオン社は、酒類事業において、持続的な成長を目指してビール市場の活性化に取り組み、「フォーエックス・ゴールド」をはじめとする主力ブランドの販売強化を進めました。「ジェームス・スクワイア」、「リトル・クリーチャーズ」の販売が好調なクラフトビールカテゴリーでは、事業基盤をさらに強化するために、クラフトビール会社（豪州ではByron Bay Brewery、ニュージーランドではPanhead Custom Ales）の買収を発表しました。また、豪州での販売権を付与され販売してきた輸入ビールのライセンス契約を、2016年9月30日付で終了することについて合意に達しました。飲料事業では、引き続き収益力向上に向けた事業構造改革や、サプライチェーン全般の見直しによるコスト削減策を進めました。注力する乳飲料カテゴリーにおいて主力商品「デア」の販売が好調でしたが、牛乳の販売が減少しました。

ブラジルキリン社は、市場環境の変化に柔軟に対応しながら地域ごとの商品戦略を遂行し、経営の効率化と収益構造改革に取り組みました。北部・北東部では、ビール主力商品「スキン」を中心とした販売活動を行い、販売数量の回復が進みました。南部・南東部では、中高価格帯商品の販売活動に注力し、缶容器を発売した高価格帯のプレミアムビール「アイゼンバーン」の販売が大幅に増加しました。さらに、中価格帯の商品としてリニューアル発売をした「デバッサ」の販売も大きく伸長しました。清涼飲料については、炭酸飲料「ピバスキン」の販売が好調を維持しました。これらの販売活動に加えて、自社卸の経営効率化、サプライチェーンを通じたコスト削減等の収益構造改革、製造拠点の最適化に向けた取り組みを、着実に進めました。

ミャンマー・ブルワリー社は、同社が持つ強みや価値観を維持しながら、キリングループの企業理念を反映した新しい経営理念の浸透と、ミャンマービール市場首位というポジションの維持・強化を図りました。また、高まる市場の需要に対応するため、キリンの技術支援により、生産設備増強と製造の効率化を進めました。高価格帯商品「ミャンマー プレミアム」と「キリン一番搾り（KIRIN ICHIBAN）」では、3月に樽容器、6月に缶容器と小壺を発売し、商品ポートフォリオの強化を図りました。さらに、主力商品「ミャンマービール」の販売数量が増加し、低価格帯商品である「アンダマン」の販売も好調に推移しました。

これらの結果、オセアニア総合飲料事業について、酒類事業ではクラフトビール等の販売は好調でしたが、為替の影響により売上高は減少しました。また、豪ドル安により輸入ビールの仕入れ価格が上昇し、営業利益も減少しました。飲料事業では、コスト削減が進み営業利益は増加しましたが、円高の影響を大きく受けたため、オセアニア総合飲料事業全体では減収減益となりました。

また、海外その他総合飲料事業の売上高については、ブラジルキリン社での販売数量の回復と収益構造改革の進捗、ミャンマー・ブルワリー社での販売数量の増加があったものの、為替の影響に加え、ブラジルキリン社において第1四半期より販売費の一部を売上高から控除した影響で、減収となりました。一方で、第1四半期から開始したミャンマー・ブルワリー社の営業利益の取込み、ブラジルキリン社でののれん等償却額の減少により、海外その他総合飲料事業での営業損失は減少しました。

オセアニア総合飲料事業連結売上高	2,875億円（前年同期比	15.3%減）
オセアニア総合飲料事業連結営業利益	314億円（前年同期比	13.4%減）
海外その他総合飲料事業連結売上高	1,333億円（前年同期比	2.4%減）
海外その他総合飲料事業連結営業損失	△0億円（前年同期比	—）

〈医薬・バイオケミカル事業〉

協和発酵キリン(株)が展開する医薬事業では、独自のバイオ技術を駆使し、革新的な抗体医薬品の新薬開発を進め、強みのある領域で、世界の人々の健康と豊かさに貢献できる、新たな価値の創造を目指しました。国内では、新製品である持続型G-C-S-F製剤「ジーラスタ」等が伸長し、9月には新たに乾癬治療剤「ルミセフ」の販売を開始し、遺伝子組換えアンチトロピン製剤「アコアラン」の1800IU製剤の承認申請を行いました。さらに、主力製品である持続型赤血球造血刺激因子製剤「ネスプ」等も堅調に推移し、4月に実施された薬価基準引下げの影響等を補い、売上高は前年同期を上回りました。海外においては、欧州と米州で癌疼痛治療剤「Abstral」、「PecFent」等が伸長したものの、円高の影響と技術収入の減少等により、売上高は前年同期を下回りました。

バイオケミカル事業では、医薬、医療、ヘルスケア領域のスペシャリティ分野での高いシェアを活かし、“ブランド力と収益性の向上”を重要課題として取り組みました。国内では、通信販売事業で「オルニチン」のほか新製品「アルギニンEX」が好調でしたが、医薬品原薬の一部製品で価格が下落した影響と、前年同期に集中出荷があった影響等により、売上高が前年同期を下回りました。海外の売上高は、米州・欧州が堅調に推移しましたが、円高の影響等により、前年同期を下回りました。

これらの結果、医薬・バイオケミカル事業全体では、新製品は伸長したものの、為替の円高進行と技術収入の減少に加え、研究開発費の増加により、減収減益となりました。

医薬・バイオケミカル事業連結売上高	2,524億円（前年同期比	5.2%減）
医薬・バイオケミカル事業連結営業利益	291億円（前年同期比	32.5%減）

〈その他事業〉

小岩井乳業(株)では、“小岩井らしさ”を持った商品である「小岩井 生乳（なまにゅう）100%ヨーグルト」や、3月に販売エリアを拡大した「小岩井 生乳（なまにゅう）ヨーグルトクリーミー脂肪0（ゼロ）」等に注力した結果、売上高が前年同期を上回りました。加えて、収益性の高い商品構成への改善が進んだことにより、増益となりました。

しかしながら、その他事業全体としては、(株)横浜アリーナでの大規模改修工事による施設の稼働率の大幅低下により、減収減益となりました。

その他事業連結売上高	183億円（前年同期比	2.6%減）
その他事業連結営業利益	22億円（前年同期比	23.0%減）

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、受取手形及び売掛金、無形固定資産、投資有価証券等の減少により、前連結会計年度末に比べ2,564億円減少して2兆1,873億円となりました。

負債は、有利子負債、未払酒税（流動負債「その他」）等の減少により、前連結会計年度末に比べ1,782億円減少して1兆3,274億円となりました。

純資産は、為替換算調整勘定の減少等により、前連結会計年度末に比べ781億円減少して8,599億円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、日本総合飲料事業（キリンビバレッジ㈱、メルシャン㈱等）における通期営業利益予想修正を加味した結果、平成28年8月4日付で発表した平成28年12月期の連結業績予想を、下記のとおり修正しております。

【平成28年12月期の連結業績予想】

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 親会社株主に 帰属する 当期純利益
前回発表予想 (A)	2,080,000	127,000	125,000	80,000	87円67銭
今回修正予想 (B)	2,090,000	134,000	132,000	85,000	93円15銭
増減額 (B - A)	10,000	7,000	7,000	5,000	—
増減率 (%)	0.5	5.5	5.6	6.3	—
前期実績 (平成27年12月期)	2,196,925	124,751	128,199	△47,329	△51円87銭



## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### 税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更及び耐用年数の見直し)

従来、当社及び日本総合飲料事業に属する会社の有形固定資産の減価償却方法は定率法（ただし、平成10年4月1日以降取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法）によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更いたしました。

日本総合飲料事業に属する会社において、生産拠点の集約等により生産能力の最適化を進め、需要に見合った適正な製造能力による安定的な稼働ができる状況となってきたため、「キリングroup2016年－2018年中期経営計画」の策定を契機に、減価償却の方法を検討いたしました。

その結果、今後、国内現有設備の稼働が安定的に推移していくことが見込まれるため、使用期間にわたる均等償却による費用配分を行うことが、当社グループにとってより適切であると判断しております。

また、この変更により、海外拠点を含むグループ会社の会計方針の統一が図られ、グループ会社間の比較可能性が向上されます。

同時に、一部の有形固定資産について耐用年数を変更しております。

これにより当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ7,322百万円増加しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	66,465	56,524
受取手形及び売掛金	397,692	317,880
商品及び製品	153,901	139,017
仕掛品	25,482	22,983
原材料及び貯蔵品	48,343	47,245
その他	94,529	88,514
貸倒引当金	△4,479	△5,803
流動資産合計	781,933	666,360
固定資産		
有形固定資産	711,763	687,565
無形固定資産		
のれん	269,215	229,955
その他	189,331	171,470
無形固定資産合計	458,546	401,426
投資その他の資産		
投資有価証券	408,888	347,042
退職給付に係る資産	9,891	11,830
その他	78,065	78,320
貸倒引当金	△5,317	△5,236
投資その他の資産合計	491,528	431,956
固定資産合計	1,661,839	1,520,947
資産合計	2,443,773	2,187,308

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	142,052	120,081
短期借入金	128,160	82,662
コマーシャル・ペーパー	—	38,000
1年内償還予定の社債	30,000	—
未払法人税等	20,281	24,062
引当金	7,887	16,766
その他	337,531	261,708
流動負債合計	665,913	543,282
固定負債		
社債	194,991	194,993
長期借入金	403,952	368,795
訴訟損失引当金	18,018	17,896
その他の引当金	7,447	7,039
退職給付に係る負債	59,034	57,523
その他	156,331	137,872
固定負債合計	839,775	784,121
負債合計	1,505,689	1,327,403
純資産の部		
株主資本		
資本金	102,045	102,045
資本剰余金	—	3
利益剰余金	545,711	585,971
自己株式	△2,103	△2,117
株主資本合計	645,653	685,902
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	59,836	39,772
繰延ヘッジ損益	2,396	△3,557
土地再評価差額金	△2,020	△1,959
為替換算調整勘定	△28,468	△111,589
退職給付に係る調整累計額	△13,555	△11,817
その他の包括利益累計額合計	18,188	△89,151
新株予約権	430	529
非支配株主持分	273,810	262,623
純資産合計	938,083	859,904
負債純資産合計	2,443,773	2,187,308

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)
売上高	1,630,940	1,542,934
売上原価	910,400	861,213
売上総利益	720,540	681,720
販売費及び一般管理費	618,222	571,060
営業利益	102,318	110,660
営業外収益		
受取利息	2,527	2,659
受取配当金	2,791	1,657
持分法による投資利益	9,256	8,988
その他	6,444	2,770
営業外収益合計	21,020	16,076
営業外費用		
支払利息	14,901	10,708
為替差損	3,827	4,242
その他	2,731	3,746
営業外費用合計	21,460	18,696
経常利益	101,878	108,040
特別利益		
固定資産売却益	16,613	8,155
投資有価証券売却益	6,661	7,144
受取解約金	—	20,967
その他	2,356	1,724
特別利益合計	25,631	37,991
特別損失		
固定資産除却損	1,519	2,177
固定資産売却損	535	508
減損損失	3,498	233
投資有価証券評価損	35	44
投資有価証券売却損	—	276
事業構造改善費用	4,760	7,934
その他	2,799	4,231
特別損失合計	13,149	15,406
税金等調整前四半期純利益	114,360	130,625
法人税等	43,481	42,497
四半期純利益	70,878	88,127
非支配株主に帰属する四半期純利益	15,914	13,022
親会社株主に帰属する四半期純利益	54,964	75,105

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	70,878	88,127
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,967	△20,596
繰延ヘッジ損益	1,364	△5,957
土地再評価差額金	119	61
為替換算調整勘定	△82,224	△68,150
退職給付に係る調整額	△216	1,641
持分法適用会社に対する持分相当額	9,195	△28,959
その他の包括利益合計	△67,794	△121,960
四半期包括利益	3,084	△33,832
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△10,979	△32,234
非支配株主に係る四半期包括利益	14,064	△1,597

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成27年1月1日 至 平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	総合飲料			医薬・バイ オケミカル			
	日本	オセアニア	海外その他				
売上高							
外部顧客への売上高	869,806	339,327	136,719	266,263	18,824	—	1,630,940
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,853	87	193	6,679	787	△9,602	—
計	871,659	339,415	136,912	272,943	19,612	△9,602	1,630,940
セグメント利益又は損失(△)	32,465	36,348	△7,844	43,194	2,863	△4,709	102,318

(注) 1 「その他」の区分は、乳製品などの食品事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△4,709百万円には、セグメント間取引消去494百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△5,204百万円が含まれております。全社費用は、主に純粋持株会社である当社において発生するグループ管理費用であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 平成28年1月1日 至 平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	総合飲料			医薬・バイ オケミカル			
	日本	オセアニア	海外その他				
売上高							
外部顧客への売上高	851,223	287,521	133,375	252,477	18,336	—	1,542,934
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,643	86	195	5,283	666	△7,875	—
計	852,867	287,607	133,571	257,761	19,002	△7,875	1,542,934
セグメント利益又は損失(△)	52,465	31,472	△86	29,163	2,204	△4,559	110,660

(注) 1 「その他」の区分は、乳製品などの食品事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△4,559百万円には、セグメント間取引消去563百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△5,122百万円が含まれております。全社費用は、主に純粋持株会社である当社において発生するグループ管理費用であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な発生及び変動はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(有形固定資産の減価償却方法の変更及び耐用年数の見直し)

7ページ「(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)」に記載のとおり、当社及び日本総合飲料事業に属する会社の有形固定資産の減価償却方法については、従来、定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法)によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更し、同時に、一部の有形固定資産について耐用年数を変更しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合と比べ、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益が、「日本総合飲料」セグメントで7,222百万円、「その他」で100百万円増加しております。

(追加情報)

(法人税率の変更等による影響)

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成28年法律第15号)及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」(平成28年法律第13号)が平成28年3月31日に公布され、平成28年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。

この変更により、当第3四半期連結累計期間の未収還付法人税等(流動資産「その他」)が481百万円、繰延税金負債の純額が1,214百万円それぞれ減少し、法人税等(借方)が712百万円、未払法人税等が787百万円、その他有価証券評価差額金(貸方)が869百万円、退職給付に係る調整累計額(借方)が211百万円それぞれ増加しております。

また、再評価に係る繰延税金負債は61百万円減少し、土地再評価差額金(借方)が同額減少しております。

(連結財務諸表に関する会計基準等の適用)

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)第39項に掲げられた定め等を適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。



# 2016年第3四半期決算 補足説明資料

1. 連結損益計算書サマリー・指標等
2. 売上高明細
3. 利益増減明細
4. 連結貸借対照表サマリー
5. その他情報

キリンホールディングス株式会社  
2016年10月31日

1. 連結損益計算書サマリー・指標等

(1) 損益計算書サマリー・指標等

(単位：億円)

	2016年 第3四半期 (実績)	2015年 第3四半期 (実績)	対前年増減	
売上高	15,429	16,309	△880	△5.4%
売上総利益	6,817	7,205	△388	△5.4%
販売費及び一般管理費	5,710	6,182	△471	△7.6%
営業利益	1,106	1,023	83	8.2%
営業外収益	160	210	△49	△23.5%
営業外費用	186	214	△27	△12.9%
経常利益	1,080	1,018	61	6.0%
特別利益	379	256	123	48.2%
特別損失	154	131	22	17.2%
税金等調整前四半期純利益	1,306	1,143	162	14.2%
法人税等	424	434	△9	△2.3%
非支配株主に帰属する四半期純利益	130	159	△28	△18.2%
親会社株主に帰属する四半期純利益	751	549	201	36.6%
平準化EPS	93円	88円	5円	5.7%
売上高(酒税抜き)	13,273	14,105	△832	△5.9%
営業利益(のれん等償却前)	1,319	1,281	37	2.9%
営業利益率(対酒税抜き・のれん等償却前)	9.9%	9.1%		
平準化EBITDA	1,949	2,024	△75	△3.7%
EPS(のれん等償却前)	114円	98円	16円	16.8%

平準化EPS = 平準化四半期純利益 / 期中平均株式数

平準化四半期純利益 = 四半期純利益 + のれん等償却額 ± 税金等調整後特別損益

平準化EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額 + 持分法適用関連会社からの受取配当金

(2) 主要在外会社損益の為替換算レート及び取込期間

(単位：円)

	2016年 第3四半期 (実績)	2015年 第3四半期 (実績)
ライオン (豪ドル)	83.87	95.19
ブラジルキリン (ブラジルリアル)	31.12	37.94
ミャンマー・ブルワリー (ミャンマーチャット('000))	92.62	—

	2016年第3四半期 (実績)	2015年第3四半期 (実績)
ライオン	2015年10月～2016年6月	2014年10月～2015年6月
ミャンマー・ブルワリー		—
サンミゲルビール		2014年10月～2015年6月

2. 売上高明細

(単位：億円)

	2016年 第3四半期 (実績)	2015年 第3四半期 (実績)	対前年増減	
			△880	△5.4%
売上高	15,429	16,309	△880	△5.4%
日本総合飲料	8,512	8,698	△185	△2.1%
キリンビール ※1	5,028	5,139	△110	△2.2%
キリンビバレッジ ※2	2,677	2,763	△85	△3.1%
メルシャン	458	482	△24	△5.1%
その他・内部取引消去	347	312	35	11.4%
海外総合飲料	4,208	4,760	△551	△11.6%
ライオン	2,876	3,394	△518	△15.3%
ブラジルキリン	791	984	△192	△19.6%
ミャンマー・ブルワリー	180	—	180	—
その他・内部取引消去	360	381	△21	△5.5%
医薬・バイオケミカル	2,524	2,662	△137	△5.2%
協和発酵キリン	2,577	2,729	△151	△5.6%
医薬	1,958	2,081	△122	△5.9%
バイオケミカル	619	648	△29	△4.5%
その他・内部取引消去	△52	△66	13	—
その他	183	188	△4	△2.6%

※1 キリンビールとキリンビールマーケティングの合算値

※2 2016年 売上高から販売促進費 238億円を控除

<参考> 酒税売上高

(単位：億円)

	2016年 第3四半期 (実績)	2015年 第3四半期 (実績)
キリンビール	2,958	3,023

3. 利益増減明細

(1) 営業利益

(単位：億円)

	2016年 第3四半期 (実績)	2015年 第3四半期 (実績)	対前年増減
営業利益	1,106	1,023	83
日本総合飲料	524	324	199
キリンビール	510	470	39
キリンビバレッジ	156	9	146
メルシャン	17	1	16
その他 ※	△158	△156	△1
海外総合飲料	313	285	28
ライオン（連結組替後）	420	485	△64
のれん償却額	△81	△93	11
ブランド償却費	△24	△28	4
計	314	363	△48
ブラジルキリン（連結組替後）	△81	△54	△26
のれん償却額	—	△33	33
ブランド償却費	△5	△19	14
計	△86	△107	21
ミャンマー・ブルワリー（連結組替後）	78	—	78
のれん償却額	△12	—	△12
ブランド償却費	△12	—	△12
計	53	—	53
その他	32	29	3
医薬・バイオケミカル	291	431	△140
協和発酵キリン（連結組替後）	291	431	△140
医薬	220	349	△129
バイオケミカル	47	64	△16
その他・のれん償却額消去	69	64	5
のれん償却額	△46	△46	△0
その他	22	28	△6
全社費用・セグメント間取引消去	△45	△47	1

※ 持株会社の費用及びその他構成会社の損益を含んでおります。

主な営業利益増減内容

(単位：億円)

会社名	要因	対前年増減	内容
キリンビール	酒類限界利益減	△38	ビール販売数量減 △2千kl △2億
			発泡酒販売数量減 △19千kl △20億
			新ジャンル販売数量減 △36千kl △41億
			RTD販売数量増 8千kl 7億
			品種構成による差異 他
原材料費減	29	原料費減 24億、包材費減 6億	
		販売費増 △13	販売促進費増 △34億、広告費減 24億 (計 700億→710億) 他 (ビール・発泡酒・新ジャンル △4億、RTD △5億 他)
その他費用減	61	減価償却費減 44億、人件費減 15億、電力・燃料費減 10億 他	
計		39	* 償却方法変更影響 32億円含む
キリンビバレッジ ※	清涼飲料限界利益増	44	販売数量増 1,465万ケース 64億
			商品・容器構成差異等 △20億
	原材料費等減	49	原料費減 17億、包材費減 10億、 加工費減 21億
	販売費減	27	販売促進費減 6億・広告費減 21億 (計 290億→262億)
その他費用減	25	販売機器費減 他	
計		146	* 償却方法変更影響 33億円含む

※第2四半期より限界利益ベースの利益増減内容に変更し、一部の販売費を「清涼飲料限界利益増減」に含めておりません。

(2) 経常利益、四半期純利益

(単位：億円)

	2016年 第3四半期 (実績)	2015年 第3四半期 (実績)	対前年増減	増減内容
営業外損益	△26	△4	△21	現地持分損益 △2億 他
金融収支	△63	△95	31	
持分法による投資損益	89	92	△2	
サンミゲルビール	74	75	△1	
その他	15	16	△1	
為替差損益	△42	△38	△4	
その他	△9	37	△46	
経常利益	1,080	1,018	61	
特別損益	225	124	101	
特別利益	379	256	123	
固定資産売却益	81	166	△84	
投資有価証券売却益	71	66	4	
受取解約金	209	—	209	
その他	17	23	△6	
特別損失	△154	△131	△22	
固定資産除却損	△21	△15	△6	
固定資産売却損	△5	△5	0	
減損損失	△2	△34	32	
投資有価証券評価損	△0	△0	△0	
投資有価証券売却損	△2	—	△2	
事業構造改善費用	△79	△47	△31	
その他	△42	△27	△14	
法人税等	△424	△434	9	
非支配株主に帰属する四半期純利益	△130	△159	28	
親会社株主に帰属する四半期純利益	751	549	201	

## 4. 連結貸借対照表サマリー

(単位：億円)

	2016年 第3四半期末	2015年 期末	増減額	増減内容
流動資産	6,663	7,819	△1,155	
現金及び預金	565	664	△99	
受取手形及び売掛金	3,178	3,976	△798	・前年度末が休日による減少 他
棚卸資産	2,092	2,277	△184	
その他	827	900	△73	
固定資産	15,209	16,618	△1,408	
有形固定資産	6,875	7,117	△241	
無形固定資産	4,014	4,585	△571	
のれん	2,299	2,692	△392	・在外子会社の為替影響による減少 他
その他	1,714	1,893	△178	
投資その他の資産	4,319	4,915	△595	・保有株式の株価変動による時価減少 他
資産合計	21,873	24,437	△2,564	
流動負債	5,432	6,659	△1,226	
支払手形及び買掛金	1,200	1,420	△219	
有利子負債	1,206	1,581	△374	・社債の償還及び借入金の返済による減少 他
その他	3,025	3,657	△631	・前年度末が休日による未払酒税の減少 他
固定負債	7,841	8,397	△556	
有利子負債	5,637	5,989	△351	・長期借入金の長短振替えによる減少 他
その他	2,203	2,408	△204	
負債合計	13,274	15,056	△1,782	
株主資本	6,859	6,456	402	
その他の包括利益累計額	△891	181	△1,073	・為替変動による為替換算調整勘定の減少 その他有価証券評価差額金の減少 他
新株予約権	5	4	0	
非支配株主持分	2,626	2,738	△111	
純資産合計	8,599	9,380	△781	
負債純資産合計	21,873	24,437	△2,564	

5. その他情報

(1) 主要な開示連結会社損益 (連結組替後)

2016年第3四半期実績

<連結子会社>

(単位：億円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	連結純利益
協和発酵キリン	2,577	268	231	164	86
のれん償却額消去		69	69	69	36
のれん償却額		△46	△46	△46	△46
連結取込計	2,577	291	254	188	77

<持分法適用関連会社>

(単位：億円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	連結純利益
サンミゲルビール	1,739	473	434	279	135
現地持分損益			135	135	135
ブランド償却費			△15	△15	△15
のれん償却額			△45	△45	△45
連結取込計			74	74	74

(2) 主要事業会社 売上明細

① キリンビール

	2016年 第3四半期		2015年 第3四半期	
	実績	対前年増減	実績	対前年増減
売上高	億円	%	億円	%
ビール	1,970	0.1	1,968	0.4
発泡酒	1,061	△5.2	1,119	0.0
新ジャンル	1,131	△7.8	1,227	△1.1
計	4,163	△3.5	4,315	△0.1
RTD	594	3.5	574	9.0
洋酒・その他	269	8.4	249	6.7
売上高計	5,028	△2.2	5,139	1.1



② キリンビバレッジグループ

	2016年 第3四半期		2015年 第3四半期	
	実績	対前年増減	実績	対前年増減
カテゴリー別	万ケース	%	万ケース	%
紅茶	3,743	10.0	3,403	2.4
日本茶	2,159	36.1	1,586	7.5
コーヒー飲料	2,242	4.0	2,155	5.5
果実・野菜飲料	2,112	3.3	2,045	10.6
炭酸飲料	1,863	△0.3	1,869	60.8
機能性飲料	681	8.3	629	12.5
水	3,221	8.7	2,964	16.1
その他	1,689	6.0	1,594	△6.2
計	17,710	9.0	16,245	10.8
容器別				
缶	2,962	8.2	2,737	9.0
大型PET (2L, 1.5L等)	5,866	10.3	5,319	15.2
小型PET (500ml, 280ml等)	7,038	8.3	6,500	9.2
その他	1,844	9.2	1,689	6.7
計	17,710	9.0	16,245	10.8

# 2016年通期業績予想 補足説明資料

1. 売上高明細
2. 利益増減明細

キリンホールディングス株式会社  
2016年10月31日

1. 売上高明細

(単位：億円)

	2016年 通期 (3Q予想)	2015年 通期 (実績)	3Q対前年増減		2016年 通期 (期央予想)	3Q対期央 増減
			△	%		
売上高	20,900	21,969	△1,069	△4.9%	20,800	100
日本総合飲料	11,740	11,915	△175	△1.5%	11,640	100
キリンビール ※1	7,051	7,072	△21	△0.3%	7,051	—
キリンビバレッジ ※2	3,506	3,720	△214	△5.8%	3,427	79
メルシャン	674	693	△19	△2.9%	674	—
その他・内部取引消去	508	428	79	18.7%	487	20
海外総合飲料	5,550	6,241	△691	△11.1%	5,550	—
ライオン	3,745	4,387	△641	△14.6%	3,745	—
ブラジルキリン	1,129	1,342	△213	△15.9%	1,129	—
ミャンマー・ブルワリー	228	—	228	—	228	—
その他・内部取引消去	446	511	△65	△12.8%	446	—
医薬・バイオケミカル	3,360	3,557	△197	△5.6%	3,360	—
協和発酵キリン	3,440	3,643	△203	△5.6%	3,440	—
医薬	2,630	2,784	△154	△5.5%	2,630	—
バイオケミカル	810	859	△49	△5.7%	810	—
その他・内部取引消去	△80	△85	5	—	△80	—
その他	250	254	△4	△1.7%	250	—

※1 キリンビールとキリンビールマーケティングの合算値

※2 2016年 売上高から販売促進費 332億円を控除

2. 利益増減明細

(単位：億円)

	2016年 通期 (3Q予想)	2015年 通期 (実績)	3Q対前年 増減	2016年 通期 (期央予想)	3Q対期央 増減
営業利益	1,340	1,247	92	1,270	70
日本総合飲料	630	479	150	560	70
麒麟ビール	708	626	81	708	—
麒麟ビバレッジ	155	56	98	111	44
メルシャン	25	19	5	17	8
その他 ※	△258	△222	△35	△276	17
海外総合飲料	420	332	87	420	—
ライオン(連結組替後)	564	639	△75	564	—
のれん償却額	△108	△121	13	△108	—
ブランド償却費	△30	△37	6	△30	—
計	425	480	△55	425	—
ブラジル麒麟(連結組替後)	△89	△117	28	△89	—
のれん償却額	—	△42	42	—	—
ブランド償却費	△6	△25	18	△6	—
計	△95	△185	89	△95	—
ミャンマー・ブルワリー (連結組替後)	88	—	88	88	—
のれん償却額	△16	—	△16	△16	—
ブランド償却費	△16	—	△16	△16	—
計	56	—	56	56	—
その他	34	36	△2	34	—
医薬・バイオケミカル	350	468	△118	350	—
協和発酵麒麟(連結組替後)	350	468	△118	350	—
医薬	275	362	△87	275	—
バイオケミカル	45	81	△36	45	—
その他・のれん償却額消去	91	86	5	91	—
のれん償却額	△61	△61	—	△61	—
その他	20	38	△18	20	—
全社費用・セグメント間取引消去	△80	△71	△8	△80	—

※ 持株会社の費用及びその他構成会社の損益を含んでおります。